

センターのあゆみ

- 共共拠点（文理融合）として全国研究者を支援。
- 位置や空間で様々な情報を繋ぐ。

日本学術会議「国立地図学博物館」設立勧告 1988

全国地理情報科学研究センター設立準備委員会 1996

空間情報科学研究センター設立 1998

空間データ利用を伴う共同研究の開始

柏キャンパス総合研究棟4Fに移転 2005

CSVアドレスマッチングサービス運用開始

第1回CSIS DAYS開催 2005

全国共同利用施設として活動開始 2006

全国共同利用施設記念式典を開催

初めての寄付研究部門

地理空間情報活用推進基本法成立

「空間情報社会研究イニシアティブ」設置 2008

人の流れプロジェクト開始

共同利用・共同研究拠点（空間情報科学）に認定 2010

共同研究利用システム

JoRAS運用開始

共同利用・共同研究拠点に再認定 2016

15周年記念式典開催

デジタル空間社会連携研究機構を設置 2020

共同利用・共同研究拠点に再認定 2022

センターの現況

- 小規模部局（承継教員8名、任期付・特任教員、URA・エンジニア・事務スタッフで計32名）だが文科省共共拠点中間評価ではAをキープ。
- Society5.0への全学的対応でデジタル空間社会連携研究機構(DSS)を組織し、18部局約85名の教員と連携し、組織の強靱化を模索。



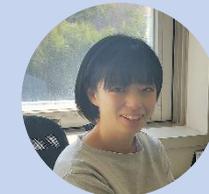
教授



准教授



講師



助教

共同研究拠点としての全国サポート

- 様々な空間データの共同利用に伴う、共同研究の数やそれに伴う論文数は着実に増えてきている。
- 今年度から国際共同研究加速のため、一部のデータは海外機関にも提供を開始している。
- このノウハウは学内のGRIの活動にも大きく貢献できると考えている。

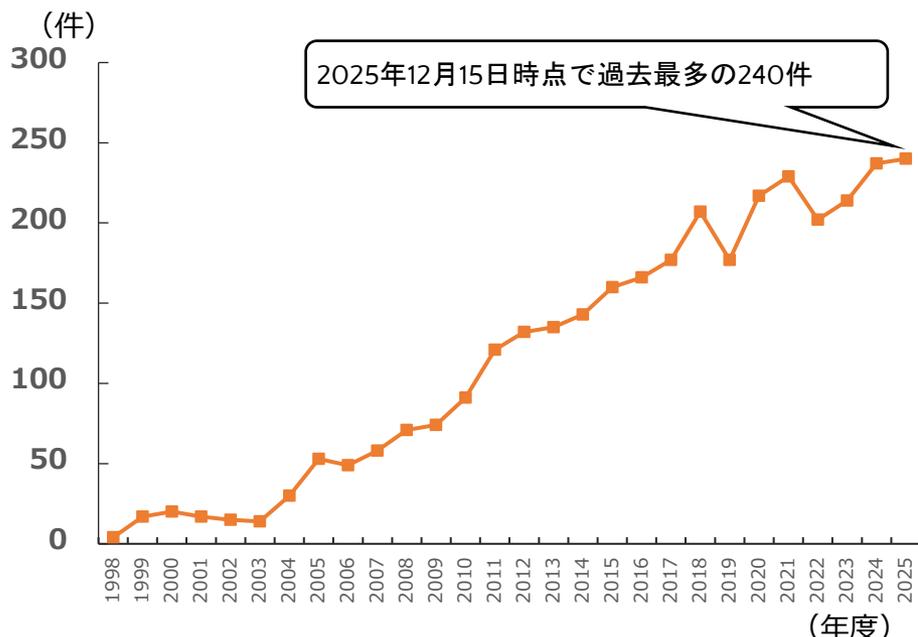
UTokyo COMPASS 2.0 

Perspective 1 知をきわめる

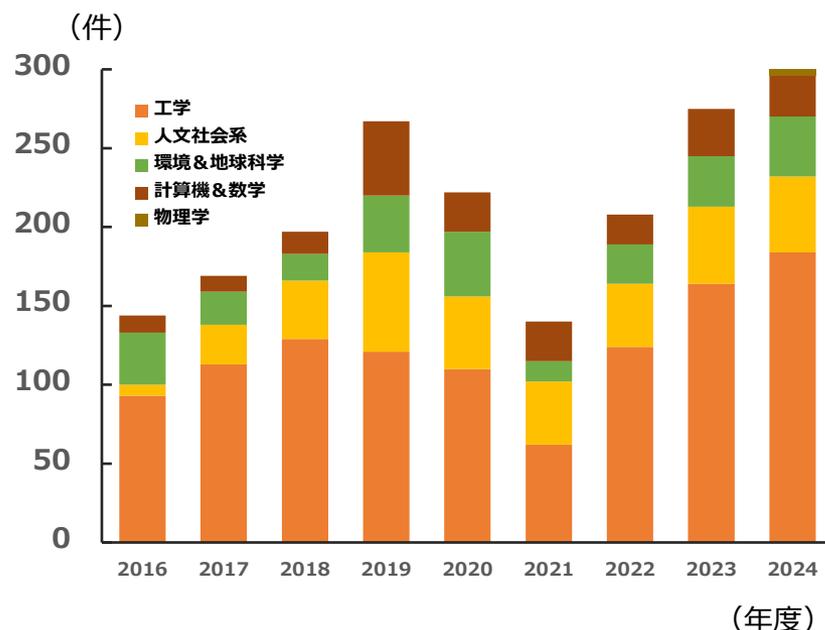
1-3 卓越した学知の構築

計画3 共同利用・共同研究拠点

共同研究採択件数の推移



共同研究業績数の推移



社会的インパクトの創出

- 学問的中立、安全保障の観点からもオープン・中立的な空間
データ基盤の構築や市民協働（シビックテック）研究を推進。
- 過去5年間で、Top10%論文は全体数の19%（88本）、
Top1%論文は4%（18本）（2025/12/3時点、SciVal）。
- 都市・社会のデジタルツイン構築でも国のSIPを4本実施中
（インフラ、モビリティ、防災、環境分野）。

UTokyo COMPASS 2.0

Perspective 1 知をきわめる

1-2 多様な学術の振興
計画1 研究基盤の強化

日本全国の擬似人流データを整備

- 世界初、日本全国1.3億人の一日の人流を再現
- 携帯電話データとの高い相関(0.81)を持つ、
高品質な世界最大の人流データ
- 共同研究を通じて、研究者に無償提供

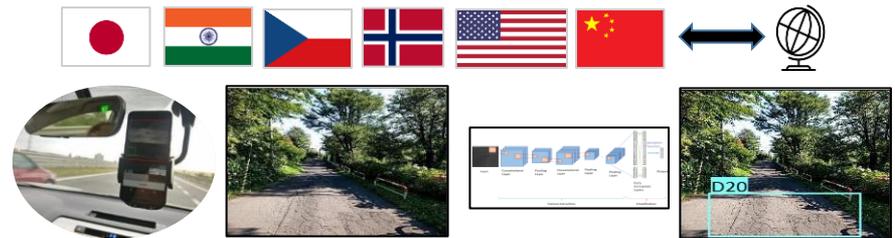


1-3 卓越した学知の構築 計画2 社会課題に取り組む研究拠点の強化・構築

次世代型市民協働プラットフォーム(My City report)

- 道路損傷画像の大規模データセットを2018年に世界初で公開。
- 国際会議で多くの国とデータを持寄りグローバルモデル/グループを構築

AI-powered Road Damage Detection using multi-national data



Global spread of participants in ORDDC'2024



多様な学術の振興（文理融合）

- データの共有による共同研究件数は順調に増加。
- 空間データをキーにした文理融合研究も増えている。
- アーバンデータチャレンジなども10年以上実施し、地域の高校生、大学生も参加しやすいコミュニティも形成。

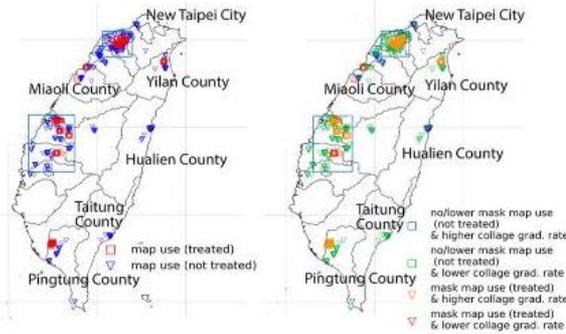
UTokyo COMPASS 2.0

Perspective 1 知をきわめる

1-2 多様な学術の振興 計画3 人文・社会科学と自然科学の協働の振興

台湾・独・日本の国際共同研究 コロナ禍台湾でのマスクマップアプリがもたらした行動変容の評価

Nature社Scientific Reports論文掲載



Shibuya, Y. et. al., (2022) Scientific Reports 12, 17607.

アーバンデータチャレンジ2024



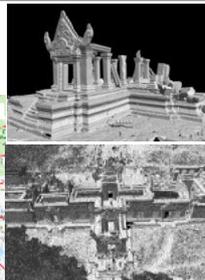
GISを用いた
イスラム歴史・
地域研究

Islamic Area Studies
with Geographical
Information Systems

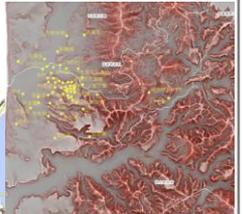
Edited by
Ulabe Atayolu.



カンボジア
プレアヴィヒア寺院と
近隣の寺院の
間の方位の
関係性を分析



史料編纂所との連携
日置北郷莊園絵図エリア3D、
金石文史料データベース



産学共創による価値創造

- 常時、寄付研究部門や社会連携研究部門が3本程度走っており、産業界とも連携した活動は多い。
- 研究成果をもとにしたスタートアップも2社出ている。
- また政府とも連携し、G空間情報センターの運営を支援。

UTokyo COMPASS 2.0

Perspective 1 知をきわめる

1-4 産学協創による価値創造 計画2 先端研究領域における産学協創

グローバル空間データcommons社会展開 寄付研究部門 (2022/5-2027/3)	1.2億円 (6社合計)
シビックテック・デザイン学創成 寄付研究部門 (2024/7-2029/3)	1億円 (4社合計)
イノベーション拠点の空間形成と評価 社会連携研究部門 (2024/10-2028/3)	1.7億円 (1社)

株式会社アークエッジ・スペース

2018年7月設立

代表の福代孝良氏（元特任准教授）が
Forbes JAPAN日本の起業家ランキン
グ2026の1位に



Perspective 3 場をつくる

3-4 社会への場の広がり
計画1 グローバルな展開を視野に入れたスタートアップエコシステム

LocationMind株式会社



2019年2月設立

「未来の市場をつくる100社【2025年版】」、
「すごいベンチャー100」（2024年）に選出

株式会社アーバンエックステクノロジーズ

2020年4月設立

日本オープンイノベーション大賞
「国土交通大臣賞」（2024年）受賞、
「すごいベンチャー100」（2023年）に選出



国際展開

- 現在、海外30大学等と部局間協定締結。一部のデータの海外提供開始。
- NYUとのMoUで公開シンポジウムを実施。NYオフィスとも連携。
- JSTのASPIRE TOPで都市デジタルツイン研究に関する国際的な頭脳循環を目指すも最終審査で落選。

UTokyo COMPASS 2.0

Perspective 3 場をつくる

3-5 国際的な場の広がり

ニューヨーク大学にて公開シンポジウム“Urban AI Symposium”開催 (2025年10月)



ニューヨークオフィスにて公開イベント開催 (2025年10月)



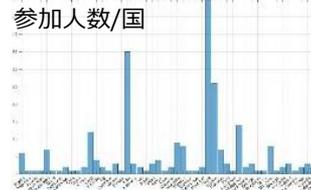
Perspective 1 知をきわめる

1-1 地球規模の課題解決への取組

国際連合GNSS
国際委員(ICG)における
GNSSトレーニング

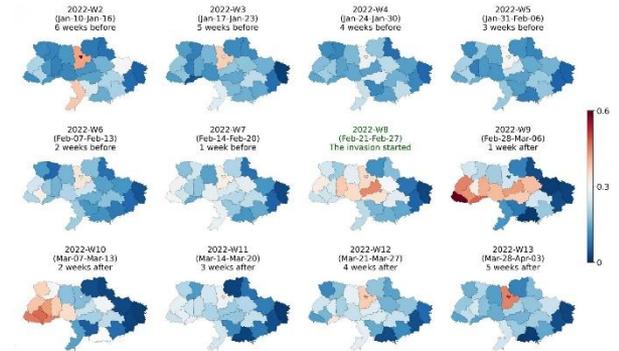


参加人数/国



人流データを用いたウクライナ侵攻時の
避難行動の把握 世界銀行との共同研究

Nature社Scientific Reports論文掲載



週ごとの州人口転出入

Shibuya, Y. et al., (2024) Scientific Reports 14, 11123.

デジタル空間社会連携研究機構 (DSS) によるセンターの強化

- 2020年に立ち上げ、現在18部局約85名の教員が参加。
- オムニバス講義やサマースクールなども実施。
- 内部の個別連携促進のための費用支援なども行っている。
- それぞれの研究成果を空間的に可視化、ハイライトする東大デジタルツインの取組も試行的に始めている。

学内参加部局

医学系研究科
工学系研究科
人文社会系研究科
理学系研究科
農学生命科学研究科
経済学研究科
総合文化研究科
新領域創成科学研究科
情報理工学系研究科
情報学環
地震研究所
生産技術研究所
大気海洋研究所
先端科学技術研究センター
未来ビジョン研究センター
情報基盤センター
史料編纂所
空間情報科学研究センター

/ 18部局 2025.12.1 現在

紫: 人文社会系



学外との研究連携

産業技術総合研究所
・人工知能研究センター
・ABCI

主題科目・学術フロンティア講義

デジタル空間社会における研究と社会実装最前線

2-3 学部教育:
専門性に加えて幅広い教養と高い倫理性を有する人材の育成

UTokyo COMPASS 2.0

Perspective 2 人をはぐくむ

2-1 包摂性への感受性と創造的な対話力をはぐくむ教育

駒場キャンパスでのサマースクール
(2025年8月)



東大デジタルツイン：多様な研究成果の空間可視化とデジタル実験場の共有

<https://campusdt.csis.u-tokyo.ac.jp/>

UTokyo COMPASS 2.0

Perspective 1 知をきわめる

Perspective 3 場をつくる

1-1 地球規模の課題解決への取組 計画3 DXの推進

1-2 多様な学術の振興 計画3 人文・社会科学と自然科学の協働の振興

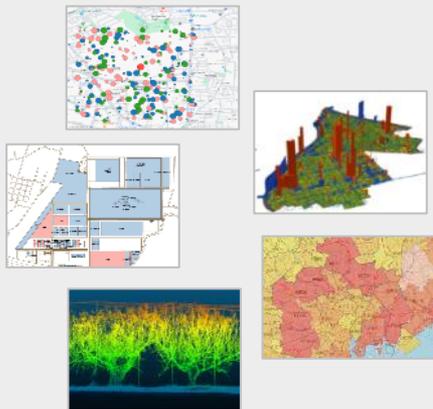
3-4 社会への場の広がり 計画4 キャンパス周辺地域との対話による地域社会活動への貢献

<全体像>



各局局保有データ

- 論文・研究データ
- 長期観測データ
- キャンパスデジタルツイン (3D、センシング情報等)



3Dプラットフォーム上で一体的に各種データを可視化

研究者・学生

① 研究プロジェクト終了後のデータ管理、再利用

論文掲載研究成果のデジタル媒体での蓄積、発信

② 将来の研究のための長期データ蓄積・管理

林学、農学、史料編纂等の長期研究データの蓄積、将来の研究者への継承

③ 実験フィールドの提供

キャンパス人流や建築物3Dなど、研究のための基礎データを提供

④ JoRASを通じた実データ提供

キャンパスデジタルツインと連携し、JoRASを通じて実データを提供

地域社会・市民

⑥ UTokyo Discovery と連携した魅力発信

- 研究者のフィールド情報の提供

⑦ 多様な地域アセットの可視化

- 全国に広がる研究フィールドと地域の連携促進

他の研究機関

⑤ ソリューションパッケージのオープン化、共共拠点校との連携強化



運営・財源

• 研究者多様性の取組

- ✓ 女性教員加速Pに2024年度2ポスト採択（准教授、助教／特任助教）
- ✓ 応募の質を上げるためにテニュアトラック公募も併せて開始
- ✓ 特任含めた外国人研究者率はすでに24%、女性研究者率は29%
- ✓ 常に採用上限（14名）一杯まで採用を行っている
- ✓ 育児休業も若手教員がほぼ全員取得
- ✓ URAやエンジニア、民間クローアポ特任教員等の雇用開始による教員の負担軽減

• 財源多様化

- ✓ 寄付部門、社会連携部門の維持
- ✓ 国プロ等の外部資金獲得の活発化
- ✓ 運営費の工夫
 - ✓ mdxのフル活用、データ・システムの仕様精査による費用圧縮
 - ✓ 外部資金で払えるものでの対応
- ✓ 文科省・学際展開ハブに3年連続で応募し、2回は最終面接までは残ったが敗退（善戦マンではダメ）